

# モンゴル経済概況 (2013年3月)

2013年4月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL：03-3582-5181

E-mail：ORG@jetro.go.jp

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

アンケート返送先 FAX : 03-3582-5309  
e-mail : ORG@jetro. go. jp  
日本貿易振興機構 海外調査部 中国北アジア課宛



● ジェトロアンケート ●

調査タイトル : モンゴル経済概況 (2013年3月)

今般、ジェトロでは、標記調査を実施いたしました。報告書をお読みになった感想について、是非アンケートにご協力をお願い致します。今後の調査テーマ選定などの参考にさせていただきます。

■質問1 : 今回、本報告書での内容について、どのように思われましたでしょうか? (○をひとつ)

4 : 役に立った 3 : まあ役に立った 2 : あまり役に立たなかった 1 : 役に立たなかった

■質問2 : ①使用用途、②上記のように判断された理由、③その他、本報告書に関するご感想をご記入下さい。

■質問3 : 今後のジェトロの調査テーマについてご希望等がございましたら、ご記入願います。

■お客様の会社名等をご記入ください。(任意記入)

ご所属	<input type="checkbox"/> 企業・団体	会社・団体名
	<input type="checkbox"/> 個人	部署名

※ご提供頂いたお客様の情報については、ジェトロ個人情報保護方針 (<http://www.jetro.go.jp/privacy/>)に基づき、適正に管理運用させていただきます。また、上記のアンケートにご記載いただいた内容については、ジェトロの事業活動の評価および業務改善、事業フォローアップのために利用いたします。

～ご協力有難うございました～

## < 目 次 >

1. 政治・外交動向	1
(1) 国内	1
①【閣議】第7回定例閣議	1
②【閣議】第8回定例閣議	1
③【閣議】第9回定例閣議	2
④【閣議】第10回定例閣議	2
(2) 外交・国際	3
①【イタリア】イタリア・モンゴルビジネス協議会が開催	3
②【欧州】鉄道および陸上輸送分野で2つの文書に署名	3
2. 経済動向	4
(1) マクロ経済	4
①【インフレ・CPI】2月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 11.3 ポイント上昇	4
②【マネーサプライ】M2は前年同期比 16.1%増	5
③【貸付残高】貸付残高は前年同期比 25.6%増、不良債権残高は同 5.4%減	7
④【金利】トゥグルク金利は前月比 0.7 ポイント上昇の 18.9%	8
⑤【財政収支】1～2月の財政収支は 838 億トゥグルクの黒字	9
(2) 貿易・投資	10
①【貿易統計】1～2月の貿易収支は3億 510 万ドルの赤字	10
②【外貨準備高】外貨準備高は 35 億 6,420 万ドル	13
③【為替】対ドルではトゥグルク安、対円ではトゥグルク高	13
(3) 産業	14
①【輸送業】鉄道貨物輸送が前年同期比 10.1%減、航空貨物輸送が同 5.9%減	14
3. 社会動向	16
(1) 社会統計	16
①【雇用統計】失業率は前年同期比 0.9 ポイント増の 7.9%	16
②【世帯収支】1世帯当たりの平均収入は前年同期比 40.6%増	16
4. 2013 年4～6月の予定	18

(注) 図表の数値は四捨五入しているため、文中で示す数値とは必ずしも一致しない。

## 1. 政治・外交動向

### (1) 国内

#### ①【閣議】第7回定例閣議

第7回定例閣議が2月2日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

##### ・ナライハ炭鉱の無許可採掘を整理

20年以上前に閉山したナライハ炭鉱では、住民達が現在も無許可で採掘を続けており、安全対策が不十分なために落盤、火災、酸欠等の事故が頻発している。

政府は、ナライハ炭鉱の安全性を確保し、無許可採掘を行っている個人業者の活動を整理するため、3月末までに立ち入り検査を行い、安全性や衛生基準を満たしていない採掘場を調査・報告するようテルビシダグワ副首相、ガンホヤグ鉱業大臣、ウランバートル市長らに指示した。また、安全基準に適合した設備を持つ坑内掘り（地下掘り）炭鉱の再開可能性を調査し、採掘で陥没した土地を回復する措置を段階的に講じるとともに、個人採掘者に安全研修を実施した上で就労させる方針を示した。

##### ・オユトルゴイの輸出用銅・金精製品に国が品質検査を実施

オユトルゴイの銅・金精錬所から輸出される製品の品質検査を行う分析センターの建設を決定した。同センターは、国立地質研究所の附属施設で、専用の建物に最新設備を設ける。国が資源採掘に関する検査を行うことで、業務の重複をなくし、予算を節約する。オユトルゴイ鉱山は2013年の前半までに精錬銅の輸出開始を目指しており、政府は輸出される精錬品に含まれる銅や金、その他の金属の含有率を測定することで、売上、利益と税収を適切な水準に管理することができるとみている。

#### ②【閣議】第8回定例閣議

第8回定例閣議が2月7日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

##### ・エルデネス・タワントルゴイの活動を支援

エルデネス・タワントルゴイ株式会社の活動を支援する目的で、タワントルゴイ～ガシューンスハイト間に建設された舗装自動車道路の通行料金を免除するよう、バトバヤル経済開発大臣とガンスフ道路運輸大臣に指示した。

### ③【閣議】第9回定例閣議

第9回定例閣議が2月16日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

- ・ウランバートル市の暖房供給に関する決定

ウランバートル市の現在の暖房供給能力では、2013～14年の冬のピーク時に需要を満たせず、供給が不安定になると見込まれている。そのため、2013年の冬までに同市の暖房の安定供給を確保するべく、バヤンズルフ区第8ホローにあるUS-15暖房中継所を改修し、300メガワットの熱供給所を建設することになった。

建設にあたり政府は同熱供給所の施工業者と直接契約を締結し、工事の進捗状況に応じて資金を拠出する。

- ・ガソリン価格安定化プログラムが奏効

「ガソリン小売価格安定化サブプログラム」の実施状況と結果についてガンホヤグ鉱業大臣が閣議で報告した。

同サブプログラムは、石油の小売価格の安定化を図るべく2012年10月よりモンゴル銀行と鉱業省の協力の下で実施されている。モンゴル銀行から対象の石油卸業者11社に対しては、年利3.8%で合計937億トゥグルクを融資した。

これにより最近では燃料の備蓄量、とりわけガソリンの備蓄量が増加し、燃料の国際価格の高騰時においても国内ではガソリン不足に陥らず、また高騰した価格分を卸売価格で吸収することができた。ディーゼル燃料の輸入価格や国内卸売価格の上昇幅に比べ、小売価格の上昇幅が小さくとどまったことは、同サブプログラムの効果だと鉱業省が発表した。

### ④【閣議】第10回定例閣議

第10回定例閣議が2月23日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係閣僚に指示が出された。

- ・下水処理場と揚水発電所のコンセッション契約を協議

モンゴル政府が2010年に承認した国有資産のコンセッション一覧にはトルソンギノ水資源総合公社プロジェクトが含まれている。コンセッションの所有者は同プロジェクトの枠内で、1日当たり20万立方メートル処理能力のある下水処理場や、浄化処理した水を利用した100メガワット級の揚水発電所を建設する。

同プロジェクトのコンセッション契約の条件について、モリトインペックス社との間で法律に従い協議することをバトバヤル経済開発大臣に指示した。

## (2) 外交・国際

### ①【イタリア】イタリア・モンゴルビジネス協議会が開催

在イタリアモンゴル国大使館とイタリア・モンゴルビジネス協会は共同で「イタリア・モンゴルビジネス協議会」をミラノ市で開催した。

参加者はモンゴルの投資・ビジネス環境に関する意見や経験を共有するとともに、現在の投資環境上の問題点についても具体的に協議した。オドンバートル大使はイタリアのビジネスマン向けに、モンゴルへの投資や、モンゴル企業との協力の機会に関するスピーチを行った。

### ②【欧州】鉄道および陸上輸送分野で2つの文書に署名

ボルド外務大臣は2月26日、スイスのジュネーブで開催中の第2回ユーラシア陸上輸送網閣僚会合に参加し、「欧州・アジアの陸上輸送網の将来の発展に関する共同声明」「ユーラシア鉄道輸送および鉄道輸送協定統一活動に関する共同宣言」の2つの公式文書に署名した。

「欧州・アジアの陸上輸送網の将来の発展に関する共同宣言」は、ユーラシア地域の輸送網をめぐる問題の段階的な解決、インフラ整備プロジェクトに関する財政の長期的な確保、同プロジェクトの実行を管理するための効果的なメカニズムの作成などを目的としている。

「ユーラシア鉄道輸送および鉄道輸送協定統一活動に関する共同宣言」では、ユーラシア地域の鉄道に関する協定の統一による、輸送コストの削減、トランジット輸送の円滑化、書類手続きの電子化などが目標に盛り込まれた。

モンゴルはこれらの文書への署名により、鉄道・陸上輸送分野を発展させ、自国製品の欧州市場への輸出の拡大や、鉄道分野における国際的な地位の向上を目指している。

チャンドラ国連事務次長は、内陸開発途上国（LLDC）の権益を守るためのモンゴルの努力を高く評価し、ウランバートル市に設立された LLDC 国際研究センターの活動を今後も支援することを表明した。

(出所：モンゴル政府官房、モンゴル国会、モンゴル外務省の各ウェブサイト)

## 2. 経済動向

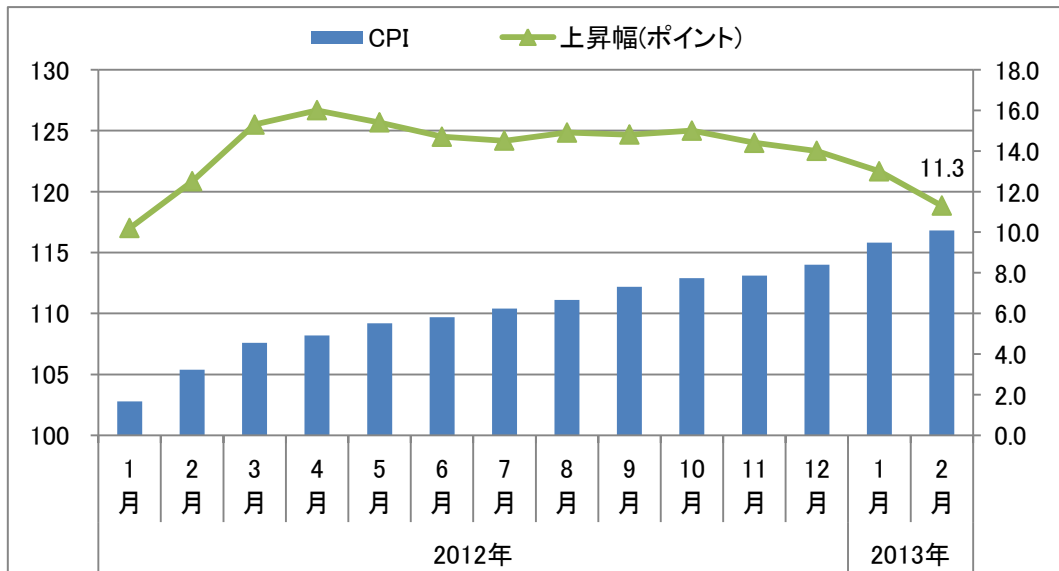
### (1) マクロ経済

#### ①【インフレ・CPI】2月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 11.3 ポイント上昇

2月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比で 11.3 ポイント（前月比では 1.0 ポイント）上昇した（図1、表1参照）。

品目別では、アルコール・タバコが 53.4 ポイント、教育が 15.2 ポイント、レストラン・ホテルが 14.8 ポイント、被服および履物が 13.7 ポイント、食料品が 13.0 ポイント、それぞれ前年同月比で上昇した。一方、郵便・通信は同 3.9 ポイント下落した（表2参照）。

(図1)消費者物価指数(CPI)の推移（左軸:CPI、右軸:前年同月比上昇幅）



(出所)国家統計局月報

(表1)消費者物価指数(CPI)の推移

	2012年										2013年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
消費者物価指数(CPI)	107.6	108.2	109.2	109.7	110.4	111.1	112.2	112.9	113.1	114.0	115.8	116.8
前月比	2.2	0.5	1.0	0.5	0.6	0.7	1.0	0.6	0.2	0.8	1.8	1.0
前年同月比	12.5	16.0	15.4	14.7	14.5	14.9	14.8	15.0	14.4	14.0	13.0	11.3

(注1)消費者物価指数(CPI)は2012年初を100とする。

(注2)前月比、前年同月比は上昇幅(ポイント)。

(出所)国家統計局月報



(表2)品目別の消費者物価指数(CPI)上昇幅 (単位:ポイント)

品目名	前年同月比		前月比	
	1月	2月	1月	2月
食料品	17.6	13.0	4.4	3.0
アルコール・タバコ	53.7	53.4	0.1	0.4
被服および履物	14.1	13.7	0.5	0.4
住居・水道	10.7	10.6	Δ0.5	Δ1.0
家具・日用品	9.6	9.0	1.3	0.5
保健医療	8.0	7.1	0.7	0.3
交通・輸送	2.9	2.9	1.8	0.2
郵便・通信	Δ4.0	Δ3.9	0.0	Δ0.1
娯楽	4.0	3.3	0.2	Δ0.1
教育	15.2	15.2	0.0	0.0
レストラン・ホテル	24.3	14.8	3.5	0.2
その他の商品・サービス	6.3	6.2	0.3	0.2

(出所)国家統計局月報

## ②【マネーサプライ】M2は前年同期比 16.1%増

2月末時点の通貨供給量(M2)は前年同期比16.1%増(前月比1.4%減)の7兆2,401億トウグルクだった(表3、図2参照)。

(表3)マネーサプライの推移 (単位:億トウグルク、%)

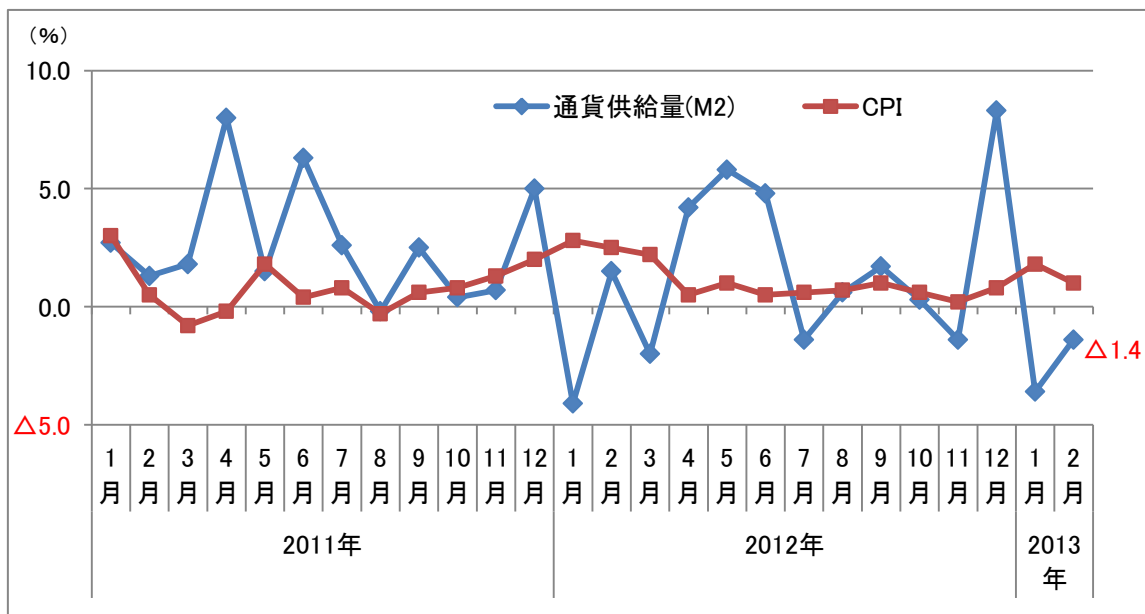
	2012年2月末	2013年1月末	2013年2月末
通貨供給量(M2)	62,376	73,443	72,401
前年同期比	28.2	19.5	16.1
前月比	1.5	Δ3.6	Δ1.4
総預金	39,953	49,394	49,558
前年同期比	26.7	27.1	24.0
前月比	2.8	0.3	0.3
トウグルク預金	29,956	36,072	36,964
前年同期比	29.6	26.2	23.4
前月比	4.8	3.4	2.5
外貨預金	9,997	13,323	12,594
前年同期比	18.7	29.7	26.0
前月比	Δ2.6	Δ7.1	Δ5.5

(出所)国家統計局月報

なお、総預金は前年同期比 24.0%増（前月比 0.3%増）の 4 兆 9,558 億トウグルク、トウグルク預金は前年同期比 23.4%増（前月比 2.5%増）の 3 兆 6,964 億トウグルク、外貨預金は前年同期比 26.0%増（前月比 5.5%減）の 1 兆 2,594 億トウグルクだった。

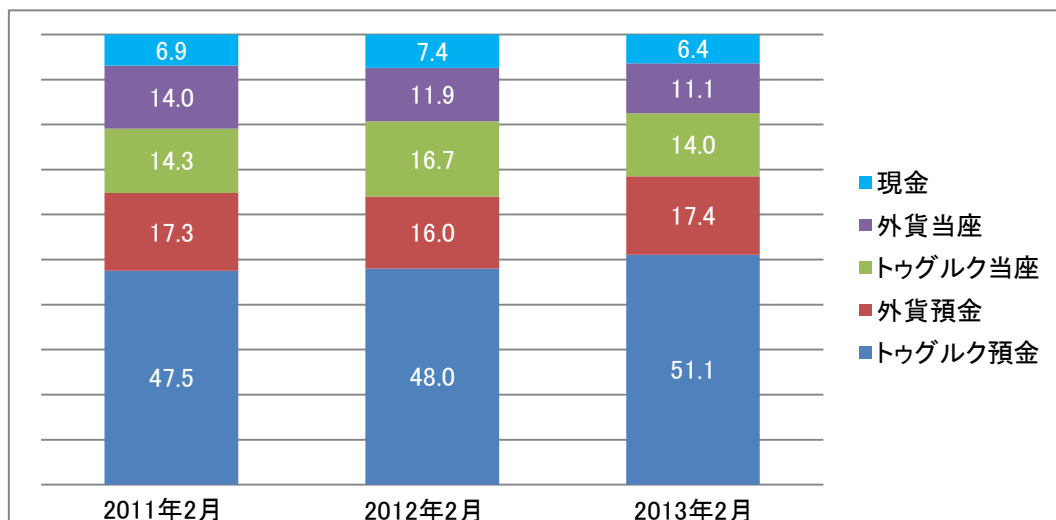
マネーサプライの構成比は、トウグルク預金が 51.1%、外貨預金が 17.4%、トウグルク当座が 14.0%、外貨当座が 11.1%、現金が 6.4%だった。前年同期比で、トウグルク預金は 3.1 ポイント、外貨預金は 1.4 ポイント増加し、トウグルク当座は 2.7 ポイント、外貨当座は 0.8 ポイント、現金は 1.0 ポイント、それぞれ減少した（図 3 参照）。

(図2) 貨幣供給量(M2)と消費者物価指数(CPI)の前月比伸び率 (単位: %)



(出所) 国家統計局月報

(図3) マネーサプライの構成比 (単位: %)



(出所) 国家統計局月報

③【貸付残高】貸付残高は前年同期比 25.6%増、不良債権残高は同 5.4%減

2月末時点の貸付残高は前年同期比 25.6%増（前月比 0.4%増）の 7 兆 1,685 億トウグルクだった（表 4 参照）。

貸付先ごとにみると、民間セクターに 3 兆 8,936 億トウグルク（構成比 54.3%）、個人に 3 兆 2,407 億トウグルク（同 45.2%）、公的機関に 146 億トウグルク（同 0.2%）、金融機関に 90 億トウグルク（同 0.1%）、その他の機関に 105 億トウグルク（同 0.2%）がそれぞれ貸し出されている。なお、企業、個人向け融資の 67.0%はハーン銀行、ゴロムト銀行、貿易開発銀行の 3 行が占めている。

不良債権残高は、前年同期比 5.4%減（前月比 0.6%減）の 3,059 億トウグルクだった（図 4 参照）。不良債権比率は 4.3%と、前年同期比で 1.4 ポイント減少した。

期限超過債権残高は前年同期比 81.2%増（前月比 5.1%増）の 1,109 億トウグルクだった。期限超過債権比率は 1.5%と、前年同期比で 0.4 ポイント増加した。

なお、市中銀行の総資産は前年同期比 35.9%増（前月比 3.8%増）の 11 兆 3,000 億トウグルクだった。

（表4）貸付残高の推移

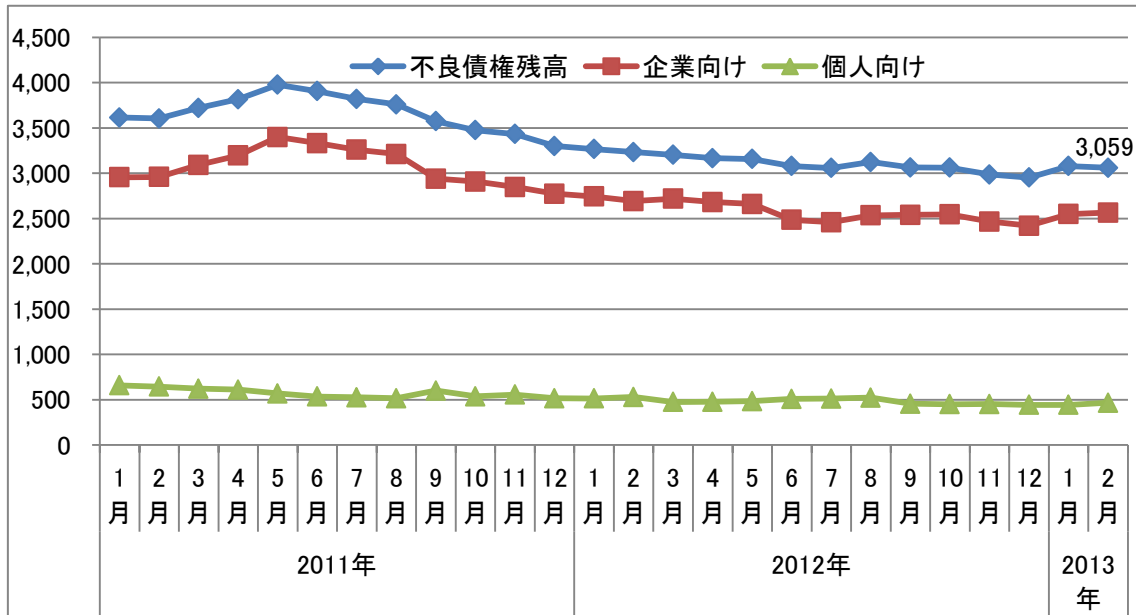
（単位：億トウグルク、%）

	2012年2月	2013年1月	2013年2月
貸付残高	57,062	71,420	71,685
前年同期比	61.8	26.5	25.6
前月比	1.0	2.2	0.4
不良債権残高	3,233	3,078	3,059
前年同期比	△10.3	△5.8	△5.4
前月比	△1.0	4.3	△0.6
期限超過債権残高	612	1,055	1,109
前年同期比	△45.6	42.9	81.2
前月比	△17.1	△4.6	5.1
不良債権比率	5.7	4.3	4.3
期限超過債権比率	1.1	1.5	1.5

（出所）国家統計局月報

(図4)不良債権残高の推移

(単位:億トゥグルク)



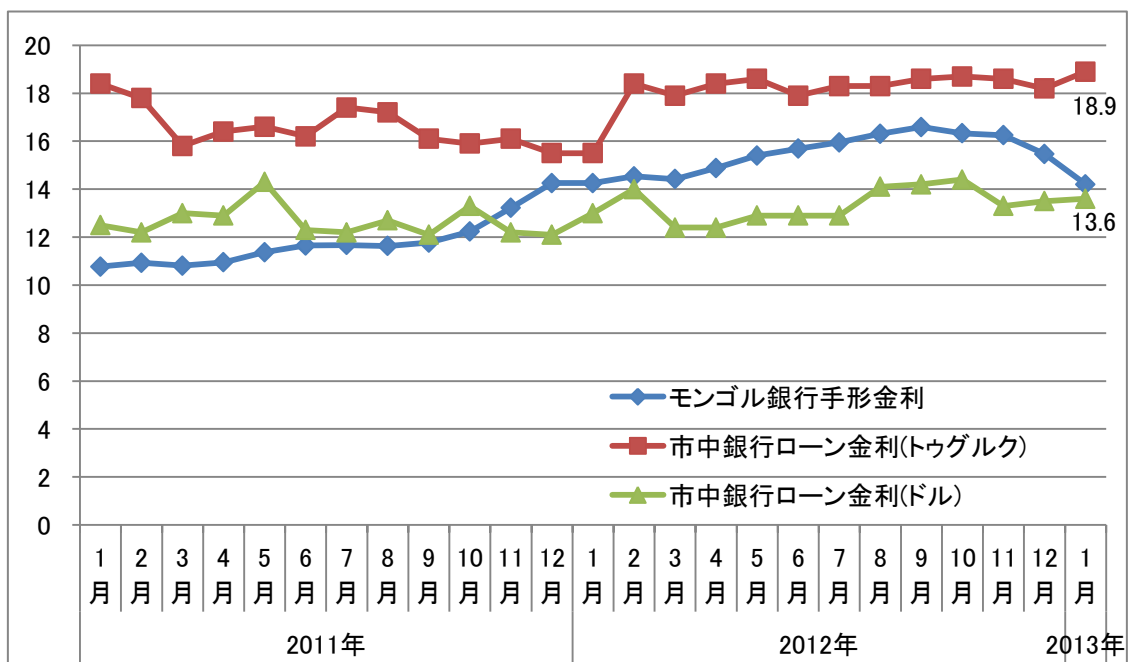
(出所)国家統計局月報

## ④【金利】トゥグルク金利は前月比0.7ポイント上昇の18.9%

2013年1月末時点の銀行ローン金利(年利)は、トゥグルクが前月比0.7ポイント上昇(前年同月比0.5ポイント上昇)の18.9%、ドルは前月比0.1ポイント上昇(前年同月比0.4ポイント低下)の13.6%だった(図5参照)。

(図5)銀行ローン金利の推移(年利)

(単位:%)



(出所)国家統計局月報

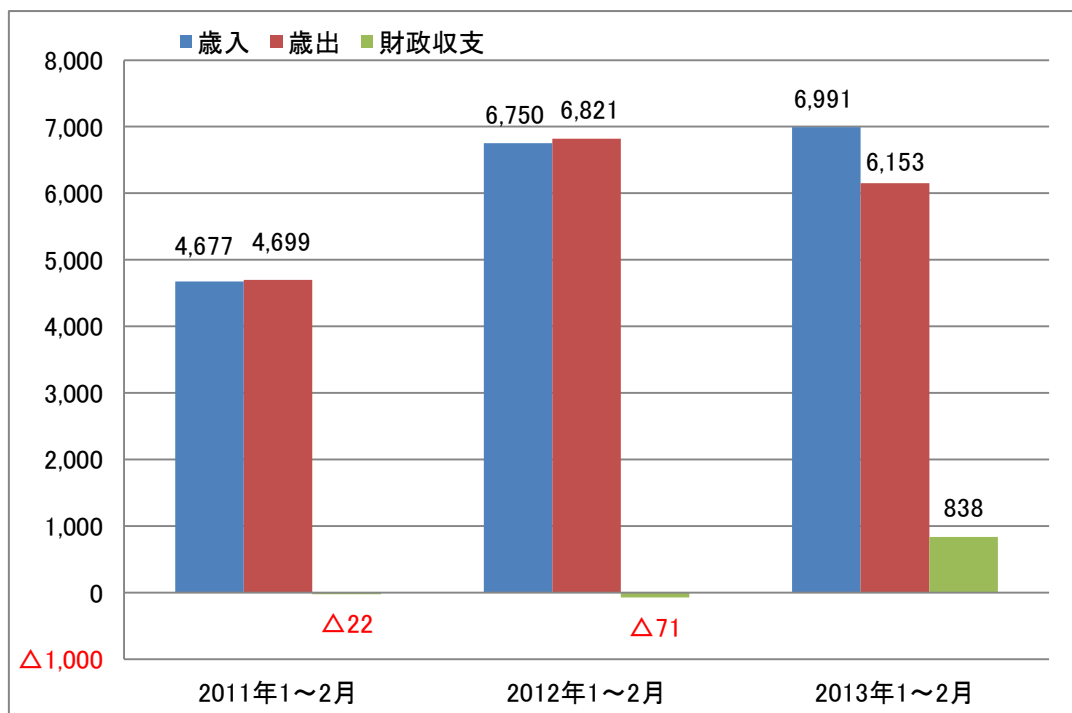
⑤【財政収支】1～2月の財政収支は 838 億トウグルクの黒字

1～2月の歳入および外国からの援助は前年同期比 3.6%増の 6,991 億トウグルク、歳出および返済は同 9.8%減の 6,153 億トウグルク、財政収支は 838 億トウグルクの黒字だった（図6参照）。

歳入および外国からの援助の内訳をみると、税金が 88.8%（前年同期比 1.0 ポイント増）、税以外の収入が 10.2%（同 1.6 ポイント減）、財政安定化基金からの収入が 0.9%（同 0.9 ポイント増）、資産からの収入が 0.1%（同 0.1 ポイント減）を占めた。

（図6）財政収支の状況

（単位：億トウグルク）



（出所）国家統計局月報

## (2)貿易・投資

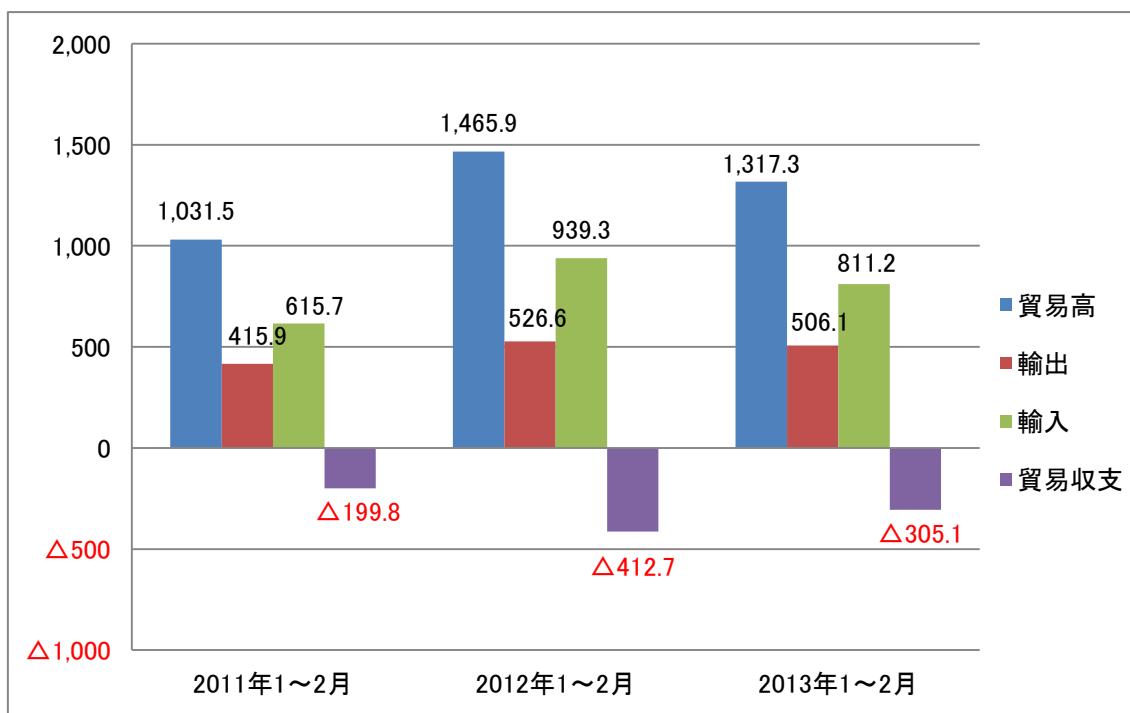
### ①【貿易統計】1～2月の貿易収支は3億 510 万ドルの赤字

1～2月のモンゴルの貿易総額は前年同期比 10.1%減の 13 億 1,730 万ドル、うち輸出は同 3.9%減の 5 億 610 万ドル、輸入は同 13.6%減の 8 億 1,120 万ドルだった。貿易収支は 3 億 510 万ドルの赤字となった（図 7 参照）。

貿易相手先は 93 カ国・地域にのぼった。シェアを見ると、中国が 44.5%（前年同期比 0.2 ポイント増）、ロシアが 21.8%（同 1.7 ポイント減）、その他が 33.7%（同 1.5 ポイント増）を占めた。

(図7)貿易額および貿易収支の推移

(単位:100 万ドル)



(出所)国家統計局月報

### <輸出の 89.7%が中国向け>

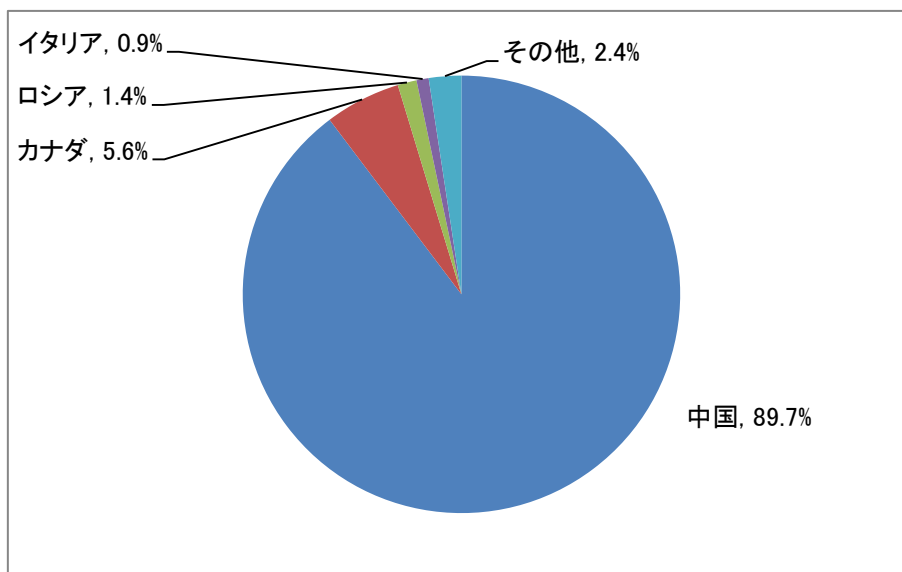
輸出相手先は 35 カ国・地域にのぼる。輸出総額に占めるシェアは、中国が 89.7%、カナダが 5.6%、ロシアが 1.4%、イタリアが 0.9%、その他が 2.4%だった（図 8 参照）。

主要輸出品目は、鉱物資源・同製品、宝石・貴金属、テキスタイル、皮革・毛皮原料などで、これら 4 品目が輸出総額の 96.9%を占める（表 5 参照）。

このうち鉱物製品の内訳をみると、粗銅が 26.9%（前年同期比 2.6 ポイント増）、石炭が 24.3%（同 11.4 ポイント減）、鉄鉱石が 16.7%（同 0.4 ポイント増）、原油が 11.5%（同 2.5 ポイント増）、未精錬または半精錬の金が 5.6%（同 2.9 ポイント増）、亜鉛鉱石が 5.3%（同 2.0 ポイント増）、蛍石が 1.7%（同 0.6 ポイント減）、その他の製品が 8.0%となっている。なお、数量ベースの輸出量は表 6 に示した通りである。

(図8)輸出相手先のシェア

(単位: %)



(出所)国家統計局月報

(表5)輸出総額に占める品目別のシェア

(単位: %)

	2011年1～2月	2012年1～2月	2013年1～2月
鉱物資源・製品	90.8	92.1	87.7
宝石・貴金属	2.4	2.7	5.6
テキスタイル	2.1	1.4	1.8
皮革・毛皮原料	1.7	1.4	1.8
その他	3.0	2.4	3.1

(出所)国家統計局月報

(表6)鉱物製品の輸出量(数量ベース) (単位: 1,000トン、金はトン、原油は1,000バレル)

	2011年1～2月	2012年1～2月	2013年1～2月
石炭	1,371.8	1,689.0	1,785.4
鉄鉱石	612.7	1,154.3	772.8
原油	251.1	495.9	601.2
粗銅	87.8	92.3	90.9
蛍石	62.1	53.9	37.9
亜鉛鉱石	29.6	18.2	26.7
金(未精錬・半精錬)	0.3	0.3	0.7
その他	0.9	1.0	1.2

(出所)国家統計局月報

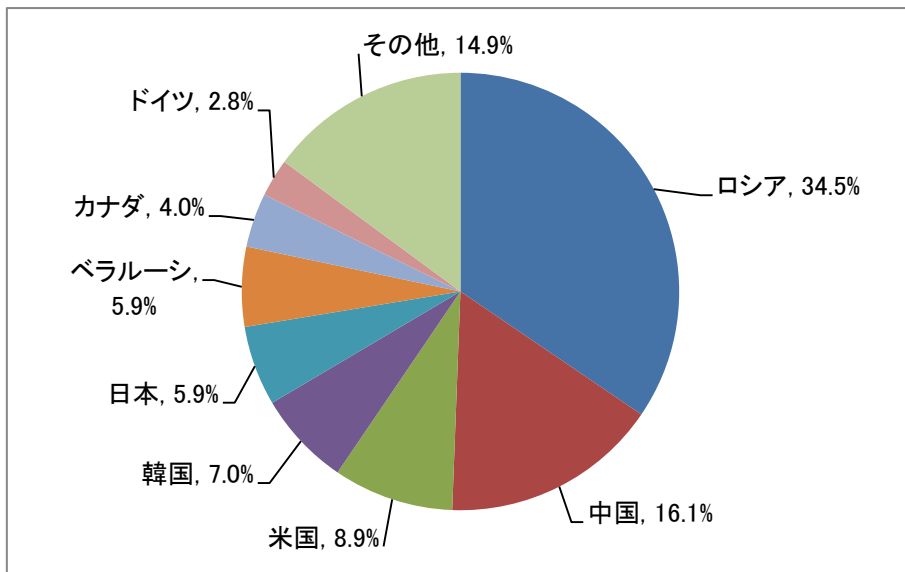
＜輸入の半分をロシア、中国に依存＞

輸入相手先は93カ国・地域にのぼる。輸入総額に占めるシェアは、ロシアが34.5%、中国が16.1%、米国が8.9%、韓国が7.0%、日本が5.9%、ベラルーシが5.9%、カナダが4.0%、ドイツが2.8%、その他が14.9%だった（図9参照）。

輸入総額に占める品目別のシェアは、鉱物製品が37.1%、機械設備・電機製品および同部品が20.8%、自動車・航空機および同部品が13.5%、食品が6.1%、その他の製品が22.5%だった。（図10参照）。

（図9）輸入相手先のシェア

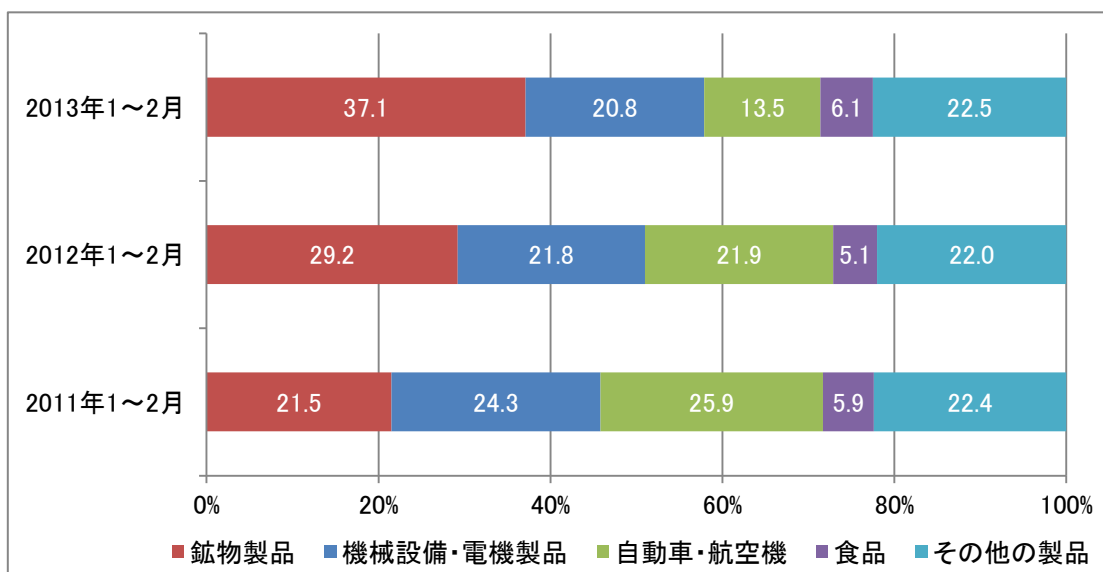
（単位：％）



（出所）国家統計局月報

（図10）輸入総額に占める品目別のシェア

（単位：％）



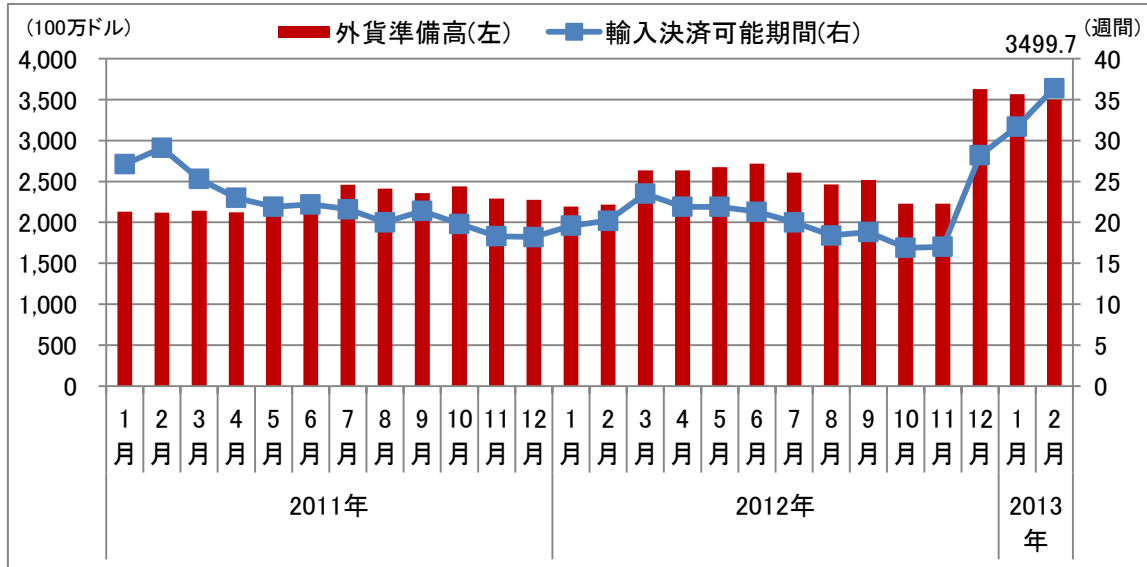
（出所）国家統計局月報



②【外貨準備高】外貨準備高は 35 億 6,420 万ドル

2 月末時点の外貨準備高は、前年同期比 12 億 8,210 万ドル増、前月比 6,450 万ドル減の 34 億 9,970 万ドルとなった。これは、モンゴルの輸入決済の 9.1 カ月分（36.4 週間分）の金額にあたる（図 11 参照）。

（図 11）外貨準備高の推移 （左軸：外貨準備高、右軸：決済可能期間）

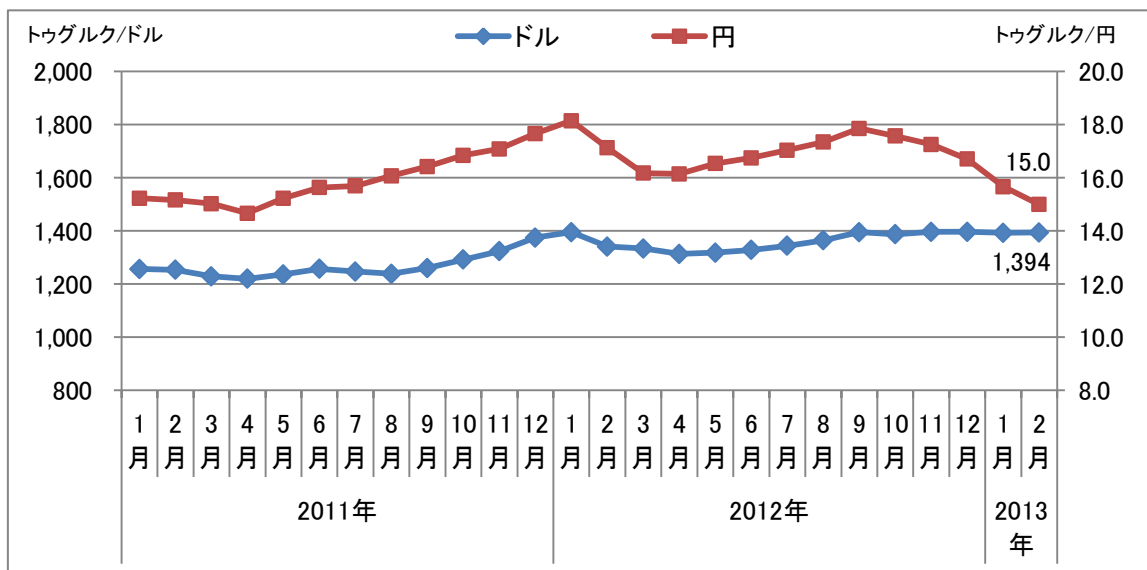


（出所）国家統計局月報

③【為替】対ドルではトゥグルク安、対円ではトゥグルク高

2 月の期中平均レートは、対ドルは 1,394 トゥグルク、対円は 15.0 トゥグルクだった。前月に比べ、対ドルでトゥグルク安、対円でトゥグルク高となった（図 12 参照）。

（図 12）為替レートの推移 （左軸：対ドル、右軸：対円）



（出所）モンゴル銀行

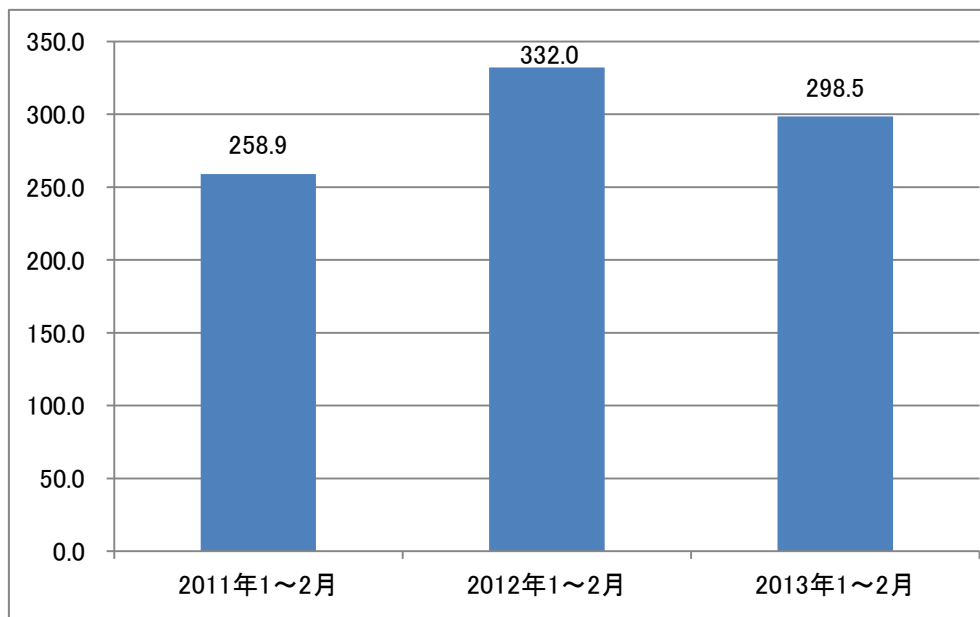
### (3) 産業

#### ①【輸送業】鉄道貨物輸送が前年同期比 10.1%減、航空貨物輸送が同 5.9%減

1～2月の鉄道貨物輸送量は前年同期比 10.1%減の 298 万 5,200 トン、航空貨物輸送は同 5.9%減の 527.2 トンだった（図 13、14 参照）。

(図 13) 鉄道貨物輸送量

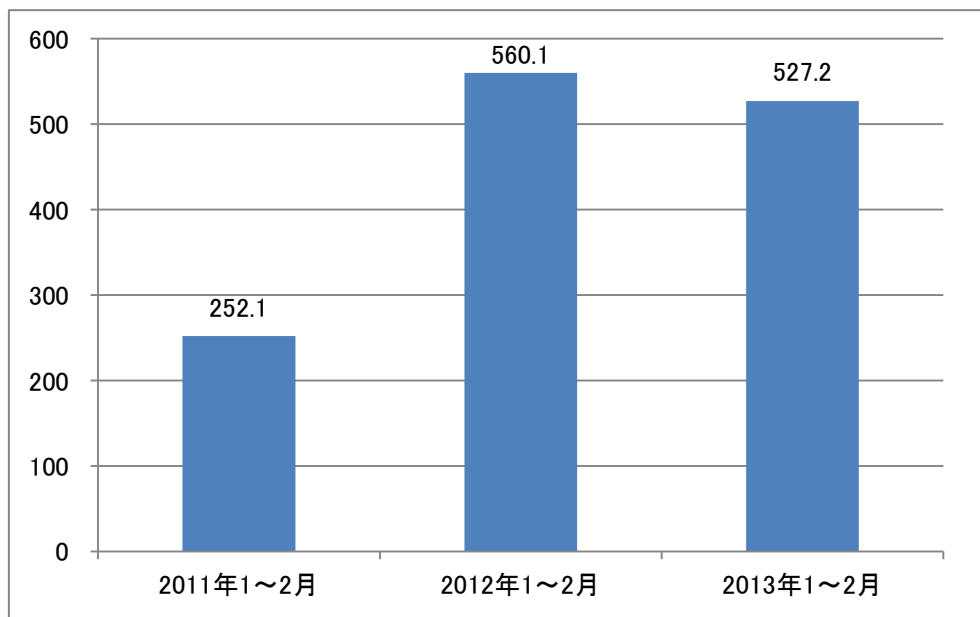
(単位:万トン)



(出所) 国家統計局月報

(図 14) 航空貨物輸送量

(単位:トン)

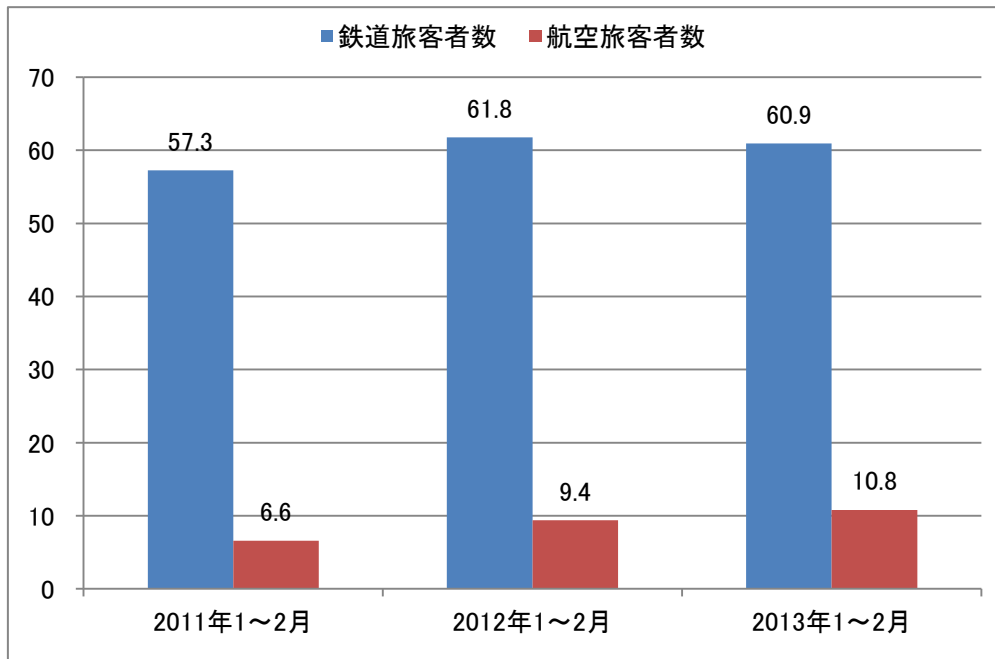


(出所) 国家統計局月報

同期間における鉄道旅客者数は同 1.5%減の延べ 60 万 9,000 人、航空旅客者数は同 14.9%増の延べ 10 万 8,000 人だった (図 15 参照)

(図 15) 1～2月の鉄道および航空旅客数

(単位:万人)



(出所) 国家統計局月報

### 3. 社会動向

#### (1) 社会統計

##### ①【雇用統計】失業率は前年同期比 0.9 ポイント増の 7.9%

2012 年第 4 四半期の雇用統計によると、労働力人口（15 歳以上）は前年同期比 0.2% 増の 110 万 6,000 人、うち男性が 57 万 5,300 人（構成比 52.0%）、女性が 53 万 700 人（同 48.0%）となった（表 7 参照）。

失業者数は 8 万 7,800 人、うち男性が 4 万 8,800 人（同 55.6%）、女性が 3 万 9,000 人（同 44.4%）で、失業率は同 0.9 ポイント増の 8.0%だった。

(表7)モンゴルの労働人口

(単位:万人)

	2010 年 第 4 四半期	2011 年 第 4 四半期	2012 年 第 4 四半期
労働力人口	113.0	110.4	110.6
うち男性	60.0	58.8	57.5
うち女性	53.0	51.6	53.1
就業者	102.4	102.7	101.9
失業者	10.6	7.7	8.7

(出所)国家統計局月報

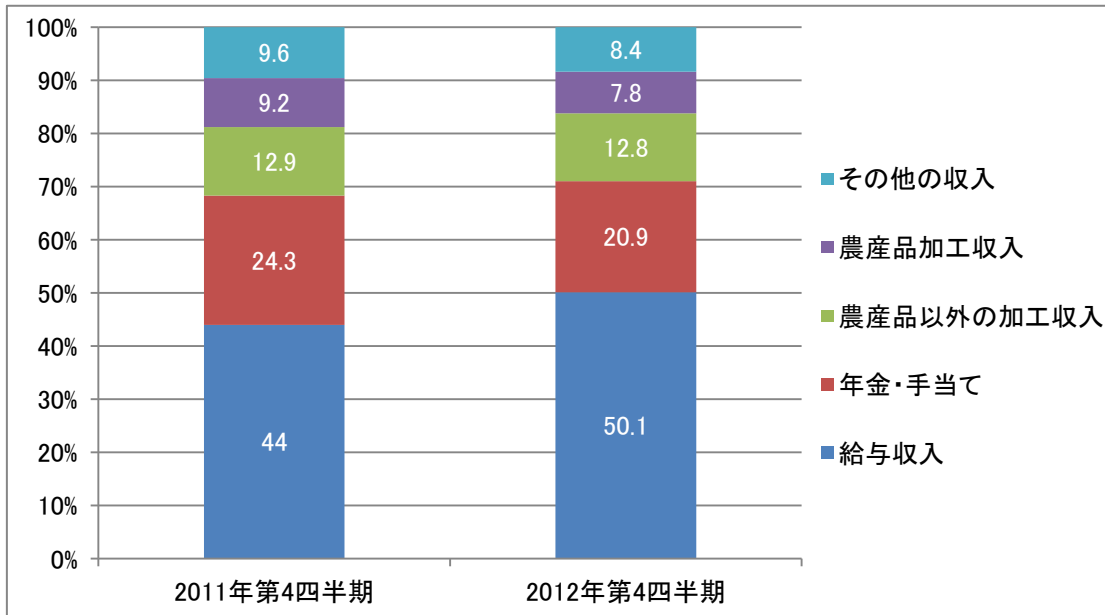
##### ②【世帯収支】1世帯当たりの平均収入は前年同期比 40.6%増

2012 年第 4 四半期の 1 世帯当たりの平均収入は前年同期比 40.6%増の 78 万 800 トウグルクだった。

構成比をみると、給与収入が同 6.1 ポイント増の 50.1%、年金・手当が同 3.4 ポイント減の 20.9%、農産品以外の加工収入が同 0.1 ポイント減の 12.8%、農産品加工収入が同 1.4 ポイント減の 7.8%、その他の収入が同 1.2 ポイント減の 8.4%だった（図 16 参照）。

(図 16) 1世帯当たりの月平均収入の構成比

(単位: %)

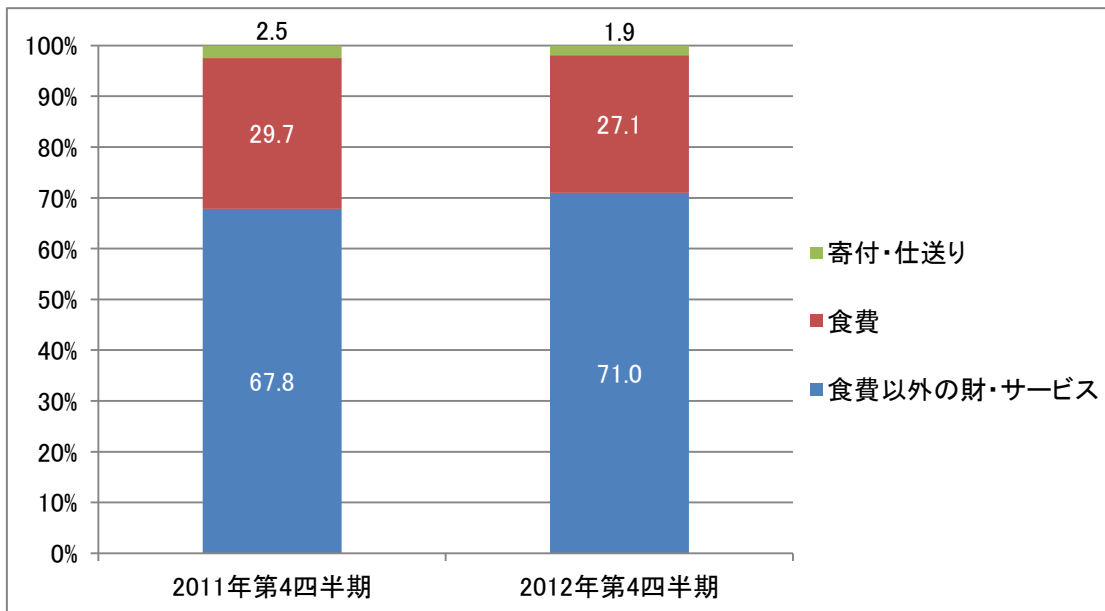


(出所) 国家統計局月報

同時期の1世帯当たりの平均支出は前年同期比34.7%増の73万9,600トウグルクだった。構成比をみると、食費以外の財・サービスが同3.2ポイント増の71.0%、食費が同2.6ポイント減の27.1%、寄付・仕送りが同0.6ポイント減の1.9%だった(図17参照)。

(図 17) 1世帯当たりの月平均支出の構成比

(単位: %)



(出所) 国家統計局月報

#### 4. 2013年4～6月の予定

- 4月16～18日 Mongolia Investment Summit 2013  
(於・Kensington Close Hotel、ロンドン)
- 4月20～25日 National ICT Conference & EXPO 2013  
(於・National Exhibition and Convention Centre Exhibition Hall、ウランバートル)
- 4月29日 第7回民主主義共同体 外相会議  
(於・ウランバートル)
- 5月1日 第3回 Risk Forum  
(於・Blue Sky Tower、ウランバートル)
- 5月3日 第6回日本モンゴル官民合同協議会  
(於・ウランバートル)
- 5月3～4日 ジャパン・ビジネス・フェア in モンゴル 2013  
(於・モンゴル商工会議所内展示ホール、ウランバートル)
- 5月14日 第2回 Mongolia Trade & Commodity Finance Conference  
(於・ウランバートル)
- 5月15～16日 Mongolia Energy and Infrastructure Summit  
(於・Kempinski Khan Palace Hotel、ウランバートル)
- 6月4～5日 Coal Processing and Mining Technology Mongolia  
(於・Misheel Expo Center、ウランバートル)
- 6月7～11日 SME's product, service & technology 2013 International Trade fair  
(於・Misheel Expo Center、ウランバートル)